



本件照会先

飯島 大介（調査担当）
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343（直通）
情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/08/07

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

「宝飾店」の倒産、大幅減 過去 20 年で最少 「金高騰」追い風

インバウンド向けが好調、
半数超が 2024 年度「増益」

「宝飾店」の倒産動向(2025 年 1-7 月)

SUMMARY

2025 年 1-7 月に発生した宝飾店の倒産は 5 件で、前年同期の 11 件を大きく下回った。このペースが続けば、通年では過去 20 年間で最少となる見込み。国内外の富裕層向けの販売が好調なほか、中古ジュエリーの需要増、貴金属価格の上昇が経営を支え、2024 年度の増益企業は 50.5%と過去 20 年間で最大となった。市場価格の高騰による購買意欲の低下が懸念されるなか、多様な販売チャネルを通じた新たな顧客層の開拓が注目される。

株式会社帝国データバンクは「宝飾店」の倒産動向について調査・分析を行った。

集計期間：2000 年 1 月 1 日～2025 年 7 月 31 日まで

集計対象：倒産は負債 1000 万円以上、法的整理によるもの

「宝飾店」の倒産、過去 20 年で最少ペース 「金高騰」追い風

「宝飾店」業界が好調だ。2025 年 1-7 月に発生したジュエリーショップなど「宝飾店」の倒産（負債 1000 万円以上、法的整理）は 5 件にとどまり、2024 年の同期間（11 件）を大きく下回った。このペースが続けば、通年では過去 20 年間で最少となることが見込まれる。

宝飾店の経営は、国内外の富裕層による販売増に加え、中古ジュエリー需要の増加、国際的な貴金属価格の上昇などに支えられてきた。2024 年度の業績が判明した宝飾店の損益動向をみると、前年度から「増益」となった企業は 50.5%と半数を超え、過去 20 年間で最大だった。前年度からの「減益」（18.9%）や「赤字」（26.1%）を合わせた「業績悪化」の割合は 45.0%と約半数を占めたものの、19 年ぶりに 4 割台に低下するなど、宝飾店の好調ぶりが際立った。

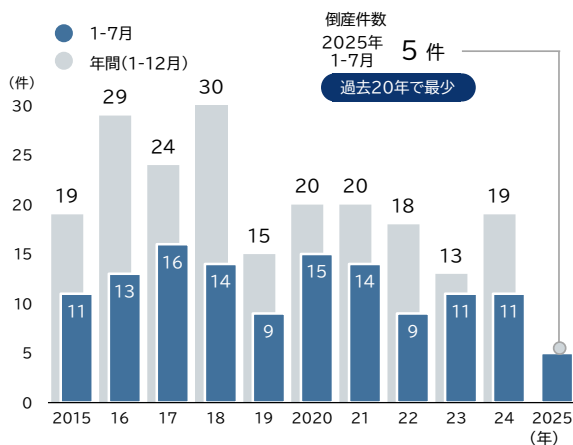
株価や不動産価格の上昇を背景に、富裕層や訪日客を中心に高額なファッションジュエリーの販売が伸長した。また、特にアジア圏からの観光客向けでは中古高級ブランド品の販売需要が旺盛で、買取販売も好調だった。店頭販売に比べて客単価が低いネット販売でも、特に若い世代を対象にした SNS 広告や口コミ効果により、安価でデザイン性の高いシルバーアクセサリーなどの需要が好調だった。

なかでも、歴史的な高値圏で推移する金（ゴールド）のほか、銀、プラチナといった貴金属では投資対象として購買需要が高まり、業績の押し上げにつながった。地金販売や貴金属買取販売をメインとする宝飾店では、金やダイヤモンドなどの貴金属で仕入価格が上昇したものの、需要の高まりから価格転嫁が進み、販売数量が前期並みながらも売上高を大幅に伸ばしたケースが多かった。

他方で、金価格は国際情勢や金融政策によって変動するほか、パールなど素材の価格高騰でジュエリー製品の値上げが続き、物価高による節約志向で国内向けでは購買意欲の落ち込みがみられるほか、中古ブランドなどではより安価に取引されるフリマアプリとの競合も激しくなっている。これまで宝飾店の業績を支えてきたインバウンドも、中国からの訪日客を中心に客数が減少傾向との声も聞かれ、好調な勢いは曲がり角に差し掛かりつつある。富裕層やインバウンド向けのイベント開催、10 万円弱の「購入しやすい」カジュアル商品の拡充や、オンライン販売や SNS を活用したプロモーションなど、多様な販売チャネルを通じた新たな顧客層の開拓戦略が注目される。

「宝飾店」の倒産動向と背景

「宝飾店」の倒産件数 推移



「宝飾店」の損益動向
(2024 年度)

